

生活科における色水遊びに関する実践的研究

○栗木 隆雅 A

野田 敦敬 B

Takamasa Kuriki

Atsunori NODA

愛知教育大学大学院 A

愛知教育大学生生活科教育講座 B

【キーワード】生活科, 自然遊び, 色水遊び

1. 研究の意義

生活科の内容(6)「自然や物を使った遊び」では、「遊びや遊びに使う物を工夫してつくことで、児童が、遊びの面白さとともに、自然の不思議さにも気付くことができるようにする」¹⁾と述べられおり、自然遊びを通して、自然の不思議さや面白さに気付くことが大切であることが分かる。さらに、菅・田畑(1986)は、「子どもにとって、自然の中で遊ぶことは知恵の発達や成長に欠かせないものである。」²⁾と述べており、自然遊びの重要性が伺える。

自然遊びの一つである、色水遊びに関する先行研究³⁾は、「愛知教育大学学術情報リポジトリ」の平成23年度のダウンロード数が多く、色水遊びは需要が高いことが分かる。一方、この先行研究は、2003年の調査結果であるため、現在の色水遊びの取り扱い方が変わってきていることが考えられる。また、先行研究では、色水遊びの授業実践は行われていない。

そこで、本研究では、生活科における色水遊びについての実態調査を行い、10年前の調査結果と比較・分析をする。その結果をふまえ、教材研究を行い、色水遊びの教育的価値について考察し、授業実践を通して、その有効性を検証することを目的とする。

2. 実態調査について

(1) 質問紙調査

1) 調査概要

時期：2012年6月～10月

対象：生活科の指導経験がある小学校教師141名

内容：色水遊びの現状について

2) 結果と考察

詳細は発表にて行う

(2) 教科書調査

1) 調査概要

対象：以下のA～Gに示す7社の平成23年度版生活科教科書とし、調査範囲は、栽培する草花が掲載されている、もしくは色水遊びに使用する草花が掲載されているページとする。その際、夏から秋にかけて咲く花に

限定する。

A社：光村図書

B社：学校図書

C社：教育出版

D社：啓林館

E社：大日本図書

F社：東京書籍

G社：日本文教出版

2) 結果と考察

詳細は発表にて行う

3. 教材研究について

(1) 栽培・採集した植物

教材研究に用いた植物は、色水遊びでよく使われている草花の上位5種類と、夏から秋にかけて咲く草花で採取可能であった6種類である。

(2) 色水の出し方

「ビニル袋に入れてもむ方法」と「すり鉢を使ってする方法」を比較した。詳細は発表にて行う。

(3) 色変え遊び

レモン水(酸性)、酢(酸性)、塩水(中性)、砂糖水(中性)、ベーキングパウダー水(アルカリ性)、石けん水(アルカリ性)を加えた際の色水の色の変化を観察した。詳細は発表にて行う。

(4) 色水遊びの教育的価値

教材研究から、色水遊びの教育的価値には以下の3点が考えられた。

- a) 諸感覚を使うことができる
- b) 中学年以降の理科学習につながる気付きが得られる
- c) 科学的な見方・考え方の基礎を養うことができる

4. 授業実践について

「3-(4) 色水遊びの教育的価値」で示した、

a)～c)の教育的価値について、授業実践を通して検証する。詳細は発表にて行う。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省：『小学校学習指導要領解説生活編』、日本文教出版、2008、p.33
- 2) 菅麻記子・田畑貞寿：「子どもの自然遊びと緑地に関する研究」、昭和61年度日本造園学会研究発表論文集(4)、1986、p.239
- 3) 赤根千枝：「色水遊びについての教材開発研究」、愛知教育大学理科教育領域卒業論文、2004